

予測できないから 人生は面白い

人生のチャレンジが

無尽蔵であることは、

われわれにとって幸運である。

▼「勇気はいかに回復されるのか」

人が明日を不安に思うのは、予測がつかないからであり、同時に明日を待ちこがれるのは、「明日は何があるのかな」と楽しみに気持ちからです。

アドラーは明日、そして未来が予測できない不確定なものだからこそ、人は人生に関心を持ち、科学や芸術も意味を持つと考えていました。もし、あらゆることが前もって計算され、明日が予測できるとしたら、宇宙は「二度話された物語」にすぎなくなり、「人生はきつとつまらぬものになってしまう」というのが、アドラーの考え方です。アドラーは言います。「人生のチャレンジが無尽蔵であること

は、われわれにとって幸運である。人間の追求・努力は決して終わることはなく、常に新しい問題を見出すか、あるいは創り出すことができ、協力と貢献のための新しい機会を創り出すことができる」。

予見できない未来があるからこそ、人は課題を解決するために協力し、そして科学などを発展させることができます。

同様に対人関係も、その先に何が起るか分からないからこそ努力をしますが、すべてが決まっていれば努力の必要などありません。

確実なものはなく、絶えず変化するからこそ、人生は生きるに値するのです。